

(7) 近畿



近畿地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

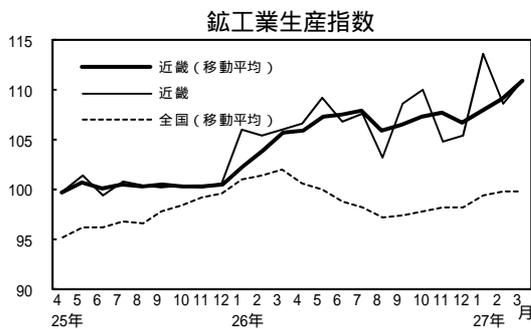
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 27 年 2 月)	今回 (平成 27 年 5 月)	
鉱工業生産	おおむね横ばい	持ち直しの動き	
住宅建設	大幅に減少	減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は、持ち直しの動きがみられる。

1～3月期には、はん用・生産用・業務用機械は、国内外ともにガスタービン等でまとまった出荷があったこと等から増加した。化学は、化粧品等で増加した。電気機械は、車載用やパソコン用等でリチウムイオン蓄電池が増加したことに加え、セパレート形エアコンが増加したこと等から増加した。輸送機械は、自動車部品等で増加した。食料品・たばこは、酒類、水産製品等で増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10～12 月期	1～3 月期	1月	2月	3月
はん用・生産用・業務用機械	17.4	1.5	13.8	17.5	3.3	14.4
化学	16.8	2.2	3.4	5.4	3.1	0.7
電気機械	9.0	1.2	9.1	17.7	5.2	3.6
輸送機械	8.4	1.4	2.7	7.0	5.8	3.8
食料品・たばこ	6.7	12.6	2.9	21.5	15.2	2.1
鉱工業	100.0	0.2	3.9	7.8	4.5	2.0

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

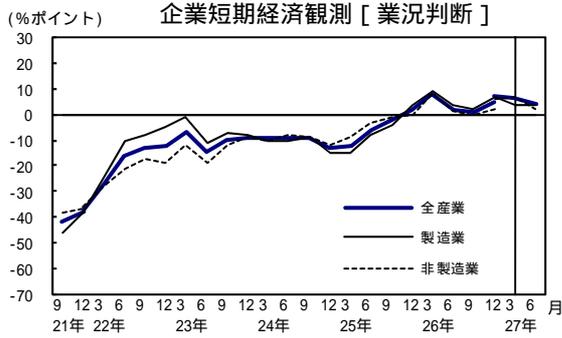
2. 1～3月期、3月は速報値。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。近畿の最新月は速報値。

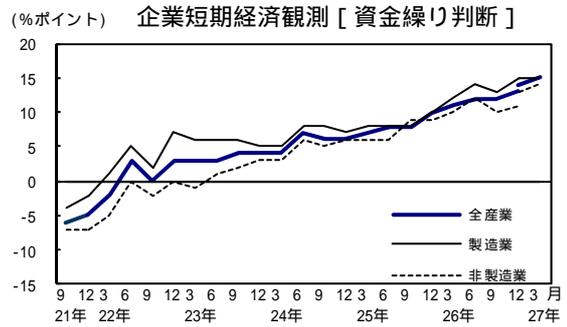
2. 全国及び近畿の大線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

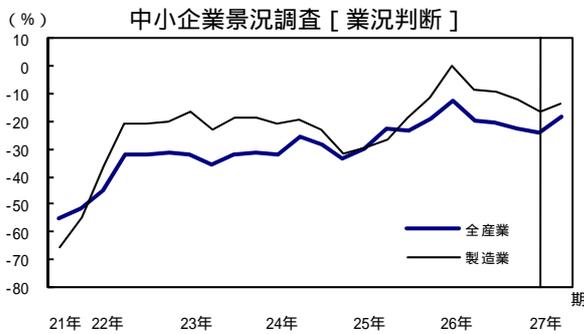
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。27年6月は予測。
21年12月及び26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月及び26年12月は新・旧基準を併記。

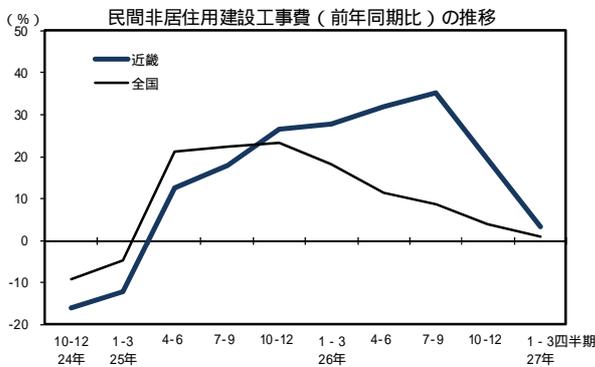


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。27年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「今月中旬から、気温の上昇で得意先からの受注量が多くなってきたので、良くなっている(食料品製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	26年度実績見込み	27年度見通
全産業	14.3(3.5)	5.9
製造業	6.3(1.7)	3.6
非製造業	19.0(6.5)	11.0

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

(7) 近畿

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比0.9%減、2月は同1.8%増、3月は同0.6%増となった。

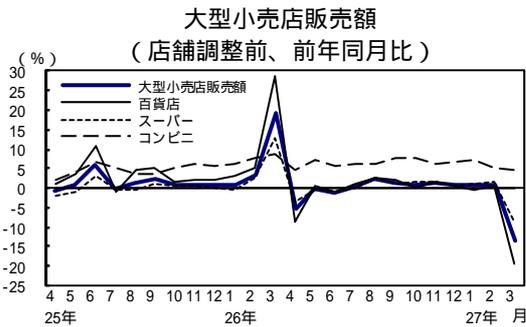
大型小売店販売額

百貨店は、1月は、クリアランスセールで苦戦したものの、高級時計や化粧品などが引き続き好調に推移したことなどから、前年を上回った。2月は、バレンタインなどの季節催事や春物商品、高額品等が好調に推移し、春節期間中の訪日外国人売上げの増加もあったことなどから、前年を上回った。3月は、訪日外国人に対する売上の増加等はあったものの、前年の消費税率引き上げ前の駆け込み需要の反動や土・日・祝休日が前年と比べて2日少なかったことなどから、前年を下回った。スーパーは、前年の消費税率引き上げ前の駆け込み需要の反動などから前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (4月) [家計動向関連 (現状)]

近畿地域の家計動向関連DIは、55.0となり前月より0.9ポイント上昇した。

「季節が変わり、パーマやカラーのオーダーが増えたため、単価が上がっている (美容室)」など、「変わらない」とする回答が増加した。

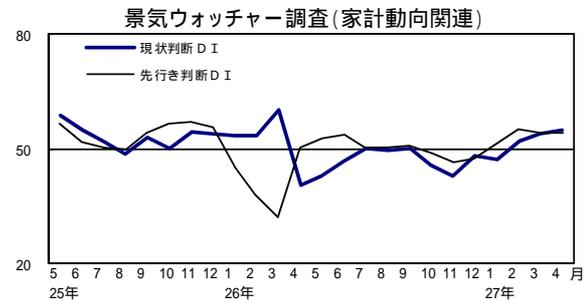
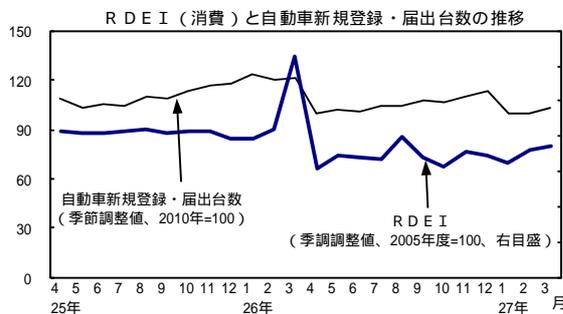


	27年1-3月	27年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	0.7	0.9	1.8	0.6
大型小売店(*2)	4.6	0.6	1.1	13.4
百貨店(*2)	7.7	0.3	0.6	19.4
スーパー(*2)	2.4	1.1	1.4	8.8
コンビニ(*2)	5.7	7.0	5.4	4.7
乗用車(*3)	16.2	18.7	17.1	13.9
(季節調整値)(*3)	8.0	11.4	0.1	3.3

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

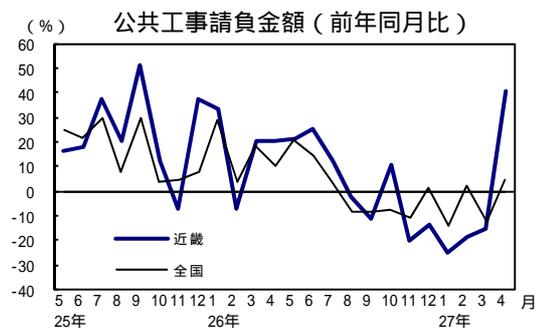
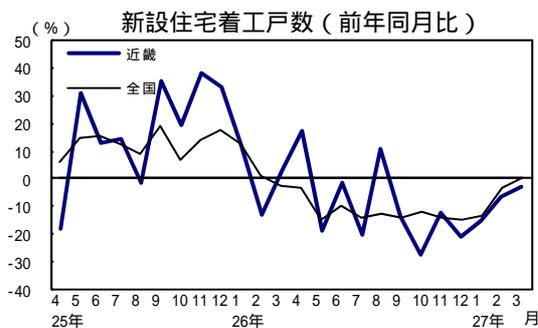
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、減少している。

(3) 公共投資は26年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

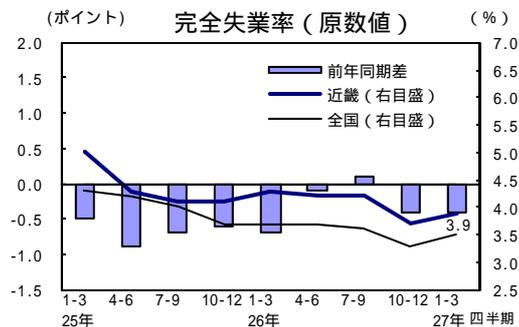
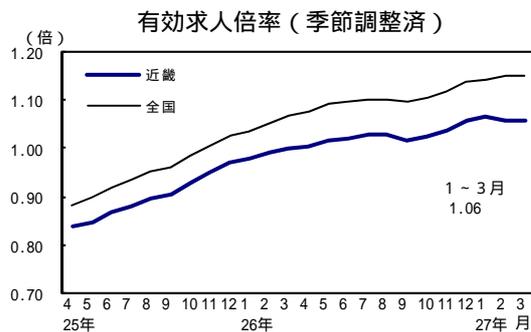


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (4月)[雇用関連(現状)]

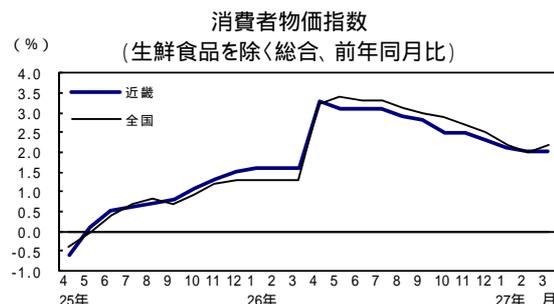
「企業の採用意欲はいまだに活発であるが、高止まりしている印象である。求人に対する求職者数が減少しているため、採用の難易度は上がっている。特に、ITや製造業では人の取り合いが続いている(アウトソーシング企業)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は、前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	26年4-6月	7-9月	10-12月	27年1-3月	27年4月
倒産件数	670	624	584	558	189
(前年比)	6.3	3.9	10.3	8.8	19.6
負債総額	1,035	845	714	842	137
(前年比)	1.0	36.1	21.1	29.1	25.1



景気ウォッチャー調査 (4月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・都心型店舗のインバウンド売上が想定以上に増えている。化粧品を中心とした、前年の消費税増税後の落ち込みによる反動だけではなく、2年前と比べても10~20%の伸びを示している。それに加えて、今月初旬に気温が上がった影響で、季節商材が順調に動いている(百貨店)。

<先行き>

・電気料金などの値上げが控えており、消費者の価格に対する目は一段と厳しくなる(その他小売[インターネット通販])。

